

令和6年度入学試験問題

総合問題(生活・総合)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入しなさい。
3. 解答用紙は3枚、草稿用紙は2枚です。
4. 解答方法が論述方式の場合は、1マス目から書き始め、1文字空けたり、改行したりせずに横書きで書き進めなさい。
5. 各解答用紙には、受験番号を記入する欄がそれぞれ1箇所あります。
6. 試験終了後、問題冊子と草稿用紙は持ち帰りなさい。

I 次の資料を参考にして問1と問2に答えよ。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

(出典) https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/new_pr_20220323_03.pdf

問 1 これらの資料の分析と考察から日本の 17 歳から 19 歳の若者にはどのような特徴があると言えるか。300 字程度で述べよ。

問 2 これらの資料の分析と考察をふまえた上で、学校教育における「総合的な学習の時間」及び「総合的な探究の時間」に要請されることは何か。300 字程度で述べよ。

Ⅱ 資料3・資料4は、国内(長野県)のある小学1年生から2年生にかけての実践事例である。この教室では、定期的に子どもが話題を持ち込めるフリートーキングの会を設定している。ある子どもが「面白いな。クラスみんなに見せたいな。話したいな。」と思った物や話題を紹介し、それについて他の子ども達が、質問・意見・感想を語り合うため、「みんなの会」と呼んでいる。このクラスでは、出来事の伝え合いにとどまらず、新たな発見や活動が生まれる場にもなっている。

資料3・資料4を読み、問1と問2に答えよ。

資料3：「みんなの会・独楽^{こま}」の実践記録 1年生の冬

※児童の名前はすべて仮名

黒板を背に家から持ってきた独楽を手に、健太がクラスの子どもの前に立った。

健太 「ぼくは独楽を回します。」

椅子に座っていた子ども達は立ち上がり、健太の周りに集まってきた。

直樹 「もうちょっと広い所でやれば。みんな、もうちょっとさがって。」

健太の手から独楽が離れると、「わあー。」と、子ども達の目が独楽に集まった。

希美 「何で回るんだろう。」

悠平 「どうして回すとくるくる動きながら歩くみたいになるのかな。」

裕紀 「僕にもやらして。」

何人かが独楽回しにチャレンジした。担任が生活科の教材の独楽を教室に持ってくると、皆が独楽遊びに興じ、休み時間に独楽で遊ぶ子ども達が増えた。

資料4：「みんなの会・オナモミ」の実践記録 1年生の冬から2年生の春

※オナモミとは、キク科オナモミ属の一年草。果実はフットボール状の楕円形で、多数の棘^{とげ}をもっている。服にからみつくので「ひつつき虫」とも呼ばれる。

※児童の名前はすべて仮名

生活科で河原遊びに出かけ、帰ってきた教室で、3人の女子が担任に「みんなの会に、これ出したいんだけど……」とオナモミの実が沢山入った袋を差し出した。担任は急遽^{きゅうきょ}5時間目に「みんなの会」を設定した。

奈々 「今日、オナモミを見つけました。いろんなものにくっつくから面白いです。」

美来 「それはどこにあったの？」

亜弥 「野原みたいな所。」

朱音 「だれがそんなに拾ったんですか？」

歩美 「三人で。」

三人はクラスの子ども達に配って回り、子ども達は自分の服につけ始めた。

絵里 「オナモミはどうしてくっつくか、分かりますか？」

三人 「……」

担任 「これは、いい質問だね。予想してみて。みんなはどう思う？」

由美 「さっきね、ジャンパーにくっつけてみたら、あんまりくっつかなかった。」

明子 「どうしてジャンパーにくっつかないのか分かった。糸は穴があいてるから。ジャンパーには穴が空いてないから。運動着もちっちゃい穴がついてるし。」

明子さんの言葉を聞いて、子ども達は自分の運動着を見始めた。「空いてるー。」「本当だー。」運動着もよく見ると、セーターと同じような網目がある。オナモミの実を手にしていた晴子さんが言った。

晴子 「どうしてだか分かった。先が曲がっているからだよ。」

担任は、虫メガネを出してオナモミの実を観察した。

担任 「ほんとだ。先の方、曲がっているよ！」

オナモミの実を見たいと子ども達が担任の周りに集まり、口々に何か言う。

俊男 「虫だってさー、良く曲がってるでしょ。だから木とかにくっつく。カブトムシの足と同じだよ。虫と同じように先っちょが曲がってる。虫も引っ張るよ。」

担任が俊男の発見に大いに感心してうなずくと、啓介がじゃべりはじめた。

啓介 「僕はね、身を守るため、自分の子孫を残すため、オナモミも生きているから、それを増やすために、とげとげを人にくっつけていると思う。」

担任 「オナモミって種なの？」

啓介 「種だよ！」

担任 「この中に種が入っているのかな？」

担任がオナモミの実を一つ、ハサミで半分に切り、皆で中を見てみたが、種らしきものは見当たらなかった。芽が出るか土に埋めてみたいと言う子が数人、ベランダにあるポットに土を入れ、オナモミを埋めた。

2年生の春、ベランダから「先生！」と声がした。担任が窓からのぞくと、何人かの子どもが集まっていた。見ると小さなポットから小さな双葉が出ており、その一枚をくわえるかのように、あのとげとげのオナモミがしっかりぶら下がっていた。「オナモミの芽が出たんだね！」「やっぱり種だったんだ！」皆で小さな命の誕生を喜び合った。

問 1 「みんなの会」では、フリートーキングの中で、児童の考える力が育まれている。自然のおもしろさや不思議さを捉えたと分かる児童の発言を資料 3・資料 4 からいくつか取り出し、どのような考える力が育っているか。450 字程度で述べよ。

問 2 教師にとって「みんなの会」が、生活科の授業を行う上でどのような教育効果があると想定できるか。300 字程度で述べよ。